

プレス発表資料

平成23年 5月27日
独立行政法人 防災科学技術研究所

「2011年度 防災コンテスト」を開催

～地域の絆と知恵を活かしたe防災マップ作りと
防災ラジオドラマづくりの2つの防災コンテストを実施します～

独立行政法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）は、地域の絆と知恵を活用して地域の防災力を高めるために、昨年度に引き続き、第2回e防災マップコンテスト、及び、第2回防災ラジオドラマコンテストを開催します。両コンテストとも、町内会や自主防災組織のみならず、PTAや福祉団体、民間事業者、中学・高校の部活動、各種市民活動団体、数名の地域の仲間や友人などが、誰でも気軽にご参加いただけます。これにより、防災活動の初めの一步を踏み出し、様々な関係者との協働の絆を広げつつ、災害リスクに対する社会のセーフティーネットを強化することが出来ます。

昨年度の応募者からは、今回の東日本大震災の対応に実際に活かされたとの声が寄せられました。また、両コンテストで利用する「e防災マップ」は、現在、被災地自治体の災害対応や災害ボランティアセンターの運営に活用されています。

1. 内容：別紙資料による。
2. 本件配布先：文部科学記者会，科学記者会，筑波研究学園都市記者会

【内容に関するお問い合わせ】

独立行政法人防災科学技術研究所
社会防災システム研究領域
災害リスク研究ユニット
長坂、坪川、須永
電話：029-863-7546

【連絡先】

独立行政法人防災科学技術研究所
アウトリーチグループ
佐竹、山科
電話：029-863-7783
FAX：029-851-1622

「2011年度 防災コンテスト」を開催

～地域の絆と知恵を活かしたe防災マップ作りと
防災ラジオドラマづくりの2つの防災コンテストを実施します～

1. はじめに

独立行政法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）は、地域の防災力を高めるために、第2回e防災マップコンテスト、及び、第2回防災ラジオドラマコンテストを開催します。

両コンテストとも、コンテストへの参加を通じて地域の災害特性を理解し、地域固有の問題や対策を検討、地域の様々な主体との絆を作り新たな災害時対応策や防災体制の構築につなげます。

e防災マップコンテストで利用するシステムは、東日本大震災の被災地での支援に利用されています。また、防災ラジオドラマは、被災現場での対応に有効だったと、ドラマ作成者から報告が寄せられております。

両コンテストへのご参加をお待ちしております。

2. 主催

◆独立行政法人 防災科学技術研究所

3. 後援・協力

◆両コンテストの後援： 文部科学省、内閣府

◆防災ラジオドラマコンテストの協力： 全国各地のコミュニティFM放送局

4. 応募対象

地域の防災力を高めたいと考えている方はどなたでも参加できます。ただし、グループでの参加が必要です。既成のグループだけでなく、コンテストのために新たに結成したグループや複数のグループの共同でも参加できます。

5. コンテスト・Webページ

◆第2回e防災マップコンテスト・Webページ <https://bosai-contest.jp/emap2011/>

◆第2回防災ラジオドラマコンテスト・Webページ <https://bosai-contest.jp/drama2011/>

※参加のお申し込みは、上記Webページにて受け付けております。

6. e防災マップコンテスト詳細

e防災マップコンテストは、インターネットを使ったマップ作成システム「eコミマップ(p. 4を参照)」を利用して、地域の防災資源や危険箇所、災害時の対応や日頃の防災活動の計画などの対策を描いた、地域固有の防災マップを応募します。本コンテストでは、出来上がったマップ自体の評価だけでなく、マップ作りを通じて防災活動の見直しや災害時の対応体制の再構築など、地域のさまざまな絆が見直されたり新たに形成されたりする過程や結果を評価いたします。

◆申し込み開始	平成23年4月1日(火)
◆作品応募期限	平成23年11月30日(水)
◆審査	防災に関わる学識経験者等による審査委員会にて厳正な審査を行い決定いたします。
◆賞	最優秀賞1点、優秀賞5点を予定
◆作品公開	受賞作品はインターネットで紹介いたします
◆表彰式および記念シンポジウム	平成24年3月中旬に開催を予定しています。(会場や詳細な日程は決まり次第コンテストのWebページよりご案内いたします。防災ラジオドラマコンテストと同時開催いたします。)
◆Webページ	https://bosai-contest.jp/emap2011/

7. 防災ラジオドラマコンテスト詳細

防災ラジオドラマコンテストは、さまざまな主体が協働して各種自然災害に対する地域の防災力を高める取り組みや、災害時の発生時に地域の多様な主体が協力・連携して災害に立ち向かうことをテーマとする防災ラジオドラマ(音声または台本)を作成するものです。e防災マップと同様、出来上がったドラマそのものだけでなく、その作成過程で形成される地域の絆やその見直しを評価いたします。防災ドラマの制作では地域のコミュニティ放送局などの協力を仰ぐことも可能です。

また、提出する応募作品の種類に応じて、ドラマ部門(声優を演じてドラマを読み上げた音声データを提出)と、台本部門(ドラマ台本の原稿を提出)がございます。

◆申し込み開始	平成23年4月1日(火)
◆作品応募期限	平成23年12月25日(日)
◆審査	防災に関わる学識経験者等による審査委員会にて厳正な審査を行い決定いたします。
◆賞	最優秀賞1点、優秀賞10点(ドラマ部門5点、台本部門5点)を予定。
◆作品公表	受賞作品はNHKラジオ第1(AM)や各地のコミュニティFM局で放送される予定です。
◆表彰式および記念シンポジウム	平成24年3月中旬に開催を予定しています。(会場や詳細な日程は決まり次第コンテストのWebページよりご案内いたします。防災ラジオドラマコンテストと同時開催いたします。)
◆Webページ	https://bosai-contest.jp/drama2011/

8. 備考

本コンテストは、府省連携による社会還元加速プロジェクトのひとつとして、当研究所が取り組んでいる研究プロジェクト「災害リスク情報プラットフォームの開発に関する研究」の一環として行う実証実験の位置づけとなります。コンテストを介して、住民が主体となって、地域の多様な主体が協働して、地域の災害をより具体的に理解し、社会資源や主体間の協働関係を活かした災害対応や防災活動を検討するリスクコミュニケーション手法と、eコミマップシステムの有効性を検証します。

「eコミマップ」について

インターネット上にある様々な地図データを、国際標準の形式に対応することで、一つの画面に様々な地図データを重ねて表示することができ、このような仕組みを「相互運用環境」と呼んでいます。eコミマップは、その相互運用環境に柔軟に対応可能であり、様々な機関が出すハザードマップや、他の機関が公開しているマップを重ねることができるインターネット上のマップシステムです。また、まちあるきを行うための地図印刷機能や、携帯電話による情報の追加機能があります。マップへの情報の追加は、マウスをクリックするだけで簡単に行うことができます。このシステムは、防災目的だけでなく、環境分野など様々な場面で活用が可能です。また、オープンソースで公開しており、誰もがeコミマップを使って新たな開発を行うことや、機能を追加することができます。現在東日本大震災で被災している地域での情報支援活動として、防災科学技術研究所が運用しているALL311のWebページ(<http://all311.ecom-plat.jp/>)をはじめ、各地の災害ボランティアセンター、市町村での利用が進んでいます。(補足説明資料:東日本大震災と防災科学技術研究所の取り組み参照)

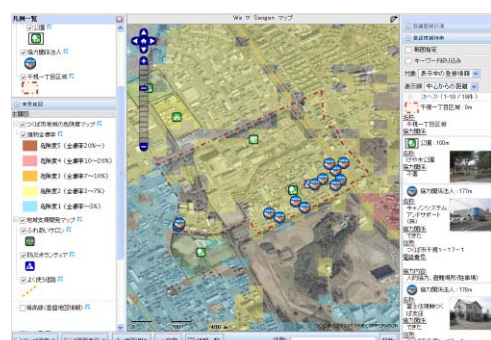


図1 第1回e防災マップコンテスト作品例
(we ♥ Sengenグループ)

(左図) 第1回e防災マップコンテストの作品

左図は、災害時に協力していただく地元事業者を示したマップです。コンテスト参加者が、避難所の備蓄が少ないことを課題として、災害時における物資提供などの協力を地元事業所に要請しました。各事業所がどのような協力が可能か、まとめた地図です。

また、市町村作成の「建物倒壊危険度マップ」の上にコンテスト参加者が情報を入力することで、物資などを安全なルートで運ぶことができます。

(右図) 被災地での活用

東日本大震災では、被災地で、被災地外からの支援で、eコミマップが活用されています。行政やボランティアセンター、自衛隊など、さまざまな方々が、情報共有や今後の活動の検討などの場面でeコミマップを活用しています。



図2 被災地でのeコミマップの利用
(上: 気仙沼市、右: 釜石市)

【補足説明資料】

東日本大震災と防災科学技術研究所の取り組み

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）は、4月下旬現在で死者行方不明者が合計2万7千人にも及ぶ史上まれな大災害となっています。被災地では未だ救助や支援活動が十分に行き届かない地域もあり、併せて発生した福島第一原子力発電所の事故では、福島県の多くの方々が避難生活を余儀なくされています。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害がこれ以上拡大しないよう、万全の手を尽くすべく、防災科学技術研究所では現在さまざまな取り組みを行っております。

e防災マップが活用されている東日本大震災協働情報プラットフォーム（ALL311）

地震から3日後の3月14日にALL311東日本大震災協働情報プラットフォームプロジェクトはスタートしました。ALL311（<http://all311.ecom-plat.jp/>）では、防災科学技術研究所が災害リスク情報プラットフォーム研究プロジェクトで培ってきたノウハウをすべて投入し、この震災に対して情報面での協働を促進し、被害を軽減し復興に貢献することを目指しています。

現在ALL311では以下のような取り組みを行っております。

1) 各種情報の共有化を進めています

全国各地のさまざまな方々より寄せられる被災地支援、被災者支援に役立つ情報を取りまとめ、サイトで公開しています。情報の種類は①地図・地理空間情報、②地震・津波に関する情報、③土砂災害に関する情報、④生活に関する情報、⑤要援護福祉に関する情報、⑥災害ボランティア運営支援に関する情報、⑦復興支援情報などです。

2) 災害ボランティアセンターの運営支援を行っています

宮城県の災害ボランティアセンターのWebページ運営をeコミュニティプラットフォーム（略称eコミ）により行っています。同時に県下の各市区町村の社会福祉協議会のWebページもeコミで支援しており、現在各地域で活発な利用が行われています。

災害ボランティアセンター・Webページ : <http://msv3151.c-bosai.jp/>

3) eコミマップの（前述）活用支援を行っています

ボランティア活動や行政事務処理などでは被災地の詳細な地図と被害状況との対応が欠かれません。eコミが持っている機能の一つであるeコミマップは地域にあるさまざまな情報を地図上に登録し、必要に応じて必要な地図を重ね合わせて見たり、印刷したりすることができます。上記の各地のボランティアセンターや市町村役場でeコミマップは活用されています。

4) 行政事務の支援にもeコミは使われています

陸前高田市や大槌町など、津波の被害が甚大な市町村では行政機能も壊滅的なダメージを受けており、被災直後から人員不足、機材不足、情報不足が生じています。これを解決するために罹災証明書の発行など、被災者の地理情報と属性を有効につなげて処理するような作業に、空間処理に適したeコミシステムが有効に活用されており、この支援活動も行っています。

5) 各種災害ボランティアを募集しています

上記のようなeコミシステムを現場で活用するためには、ボランティアスタッフによる息の長い支援が不可欠です。ALL311では情報面で被災地を支える活動ができる災害ボランティアを継続的に募集しております。現在募集しているボランティアは2種類です。

参加規定など詳細は、<http://all311.ecom-plat.jp/hp/bosyu>をご覧ください。

- ① 災害情報ボランティア：被災地のボランティアセンターの活動を、eコミシステムを利用して情報面で支援するボランティアです。
- ② 災害記録ボランティア：被災地の被害や復興の過程をeコミシステムを、利用してデジタルアーカイブを作成し被災地の変化を長期的に観察し、残していくボランティアです。

6) 災害記録アーカイブのための写真・ビデオ映像提供のお願い

被災した自治体からの要請を受けて、東日本大震災に関する記録、写真、動画を収集し、著作権や肖像権、個人情報適切に処理し、無償で利活用できるアーカイブ・プロジェクトを、当研究所ほか、さまざまな主体との協働で実施いたします。

写真・ビデオ映像、音声データなど、本趣旨にふさわしい記録しておくべき情報を広く募集いたします。

詳細は<http://all311.ecom-plat.jp/hp/bosyu/archives>をご覧ください。

地域発・防災ラジオドラマについて

<背景>

防災ラジオドラマは、「災害対応シナリオ」をもとに、ラジオドラマに仕立てた作品です。当研究所では、災害時に地域に起きることを住民主体で考えるための方法として、地域の災害対応シナリオの作成を提案しています。災害対応シナリオは、行政が作成した各種災害の被害想定やハザードマップなどを下敷きにして、地域のより細かい事情を勘案して、災害時に実際に起きることを時間に沿って、具体的に整理して記述したものを指しています。災害対応シナリオは地域の関係者が具体的に自分たちの直面する事態を考える仕組みづくりのきっかけとなるものです。シナリオにすることで、事態が展開していくイメージが掴みやすくなり、必要な対応もわかりやすくなります。

作成された災害対応シナリオは、行政や防災NPOなどの専門家によってコメントが加えられ、それによるコミュニケーションを通じて地域の繋がりが強まります。また、ドラマとしてコミュニティFMなどで放送することで、地域の災害リスクとその対応策の共有に役に立ちます。

<第1回 地域発防災ラジオドラマコンテストの結果と受賞作品>

以下のサイトから2010年度に実施した第1回地域発防災ラジオドラマコンテストの結果と受賞作品をご覧ください。

<https://bosai-contest.jp/drama2010>

<地域発防災ラジオドラマの解説書>

NHK出版より下記解説書が出版されています。
ドラマづくりの参考にしてください。

「地域発・防災ラジオドラマづくり—知恵と絆で高める防災力」（著者：長坂俊成、坪川博彰、李 泰榮、須永洋平、監修：独立行政法人 防災科学技術研究所（2011年3月30日発行））

地域発・防災ラジオ ドラマづくり

知恵と絆で高める防災力

監修：独立行政法人 防災科学技術研究所
著者：長坂俊成/坪川博彰/李 泰榮/須永洋平



地域防災ラジオドラマが災害対応に役立ちました！

つくば市立吾妻小学校 校長 沼 平助

東日本大震災が発生するわずか2時間前、つくば市立吾妻小学校（茨城県つくば市吾妻）ではPTA役員や保護者有志、教職員が集まり、防災ラジオドラマの制作を行っていました。ドラマは平日の昼間に直下型の地震が発生し、市内が震度6相当の揺れに見舞われ、登校している児童の安全な保護者への引き渡しと、避難所としての学校の対応を描いたものでした。このドラマの制作に際しては、昨年夏から数度のワークショップを開催し、関係者で何が起きるか、どう対応するかということについて時間をかけて話し合っていたところでした。

今回の震災ではまさに想定していた事態が起きておりました。そこで関係者はドラマで想定していたシナリオを現場で実践する場ととらえ、次に何が起きるかということ念頭に、先手を打って対応を進めていきました。吾妻小学校はつくば市センター地区に最も近く、900名を超す児童がいます。最初の課題はこの児童の安全な保護者への引き渡しでした。両親が共働きで迎えに来られないという児童もいましたが、ご家族や親せきの方の協力もあり、夜8時頃には無事に全児童を保護者に引き渡すことができました。その後はつくばエクスプレス（TX）が停まっているため多くの通勤者が避難者として学校に来られることの対応に追われました。すでに地震直後から避難者は学校に来はじめ、夕方には約600名の避難者を収容することになりました。被災後に断水が起きると予想されたために、バケツをはじめとする学校にあるさまざまな容器に水を汲みおきましたし、教室や廊下にテレビやラジオを配置し、避難してくる人たちが情報不足にならないよう対処しました。また避難してきた方々にも協力を呼びかけ、支援物資の食料や水、毛布などの運搬は避難者自身にお願いしました。高齢者や具合の悪い方には保健室などを利用して休んでもらいました。また夜には男女に分かれて就寝していただき、それぞれの部屋で消灯時間なども話し合っただくことにしました。体育館が被災して収容できなくなっていたため、21教室に分散して避難していただいた方々には、一晩のご苦労をおかけしましたが、翌日には、市内から都心方向に向けて出る臨時バスもあって、ほとんどの方々が昼ごろまでには退去され、3日目にして避難所は閉鎖され、学校業務に戻ることができました。

今回の震災の対応について振り返ってみますと、やはり事前に何が起きるかというシナリオを作っておいたことは非常に大きな効果があったと思います。その甲斐もあり当校で一晩を過ごされた方々から、感謝の手紙やメールが届けられ（次ページ）、職員一同感激しております。今後は想定し切れていなかった細かいところや、想定と違っていたところなども整理し、より大きな地震や別の災害の際の対応など、できるだけシナリオを関係者と協働で作りに上げておきたいと思います。PTAの皆様には特にご尽力いただき、本当にありがとうございました。

吾妻小学校の対応に感謝の声が寄せられました（抜粋）

去る3月11日、東北地方の激震に遭遇し貴小学校にて避難救助を受けたものです。当日は大変混乱の中を、突然の救助要請に、本当に手厚い援助をいただき、厚く御礼申し上げます。

翌日の朝まで、夜通しの手厚い救助に心より感謝している次第です。また寒さから膝に掛けるものをおねがいしたところ、わざわざ毛布を提供していただき、大変助かりました。教職員の皆様様の心温まる温情に接し、日本人の失いかけていた心を感じ、何か日本の未来が開けてくる足音を感じました。（中略）

これから日本は被災地を中心に困難な状況が続くと思いますが、私たちもその一員として、ささやかながら、復興に微力を尽くしたいと思っています。

春暖の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。先日は震災で帰宅の足を奪われた中、寝所と食糧をご提供いただき、誠にありがとうございました。非常事態にもかかわらず、統制のとれた職員の皆様方の働きぶりに、いたく感銘を受けました。（中略）

東日本は原発問題等でまだまだ大変だと思いますが、皆様方のご多幸をお祈り申し上げます。

つくば市立吾妻小学校の皆様へ

私は11日の地震に遭遇し、緊急避難場所を開設された貴校でお世話になりました〇〇市の〇〇と申します。10日から夫婦で泊りがけで筑波山に出かけ、両山頂と梅林を心から楽しみ、家に帰る矢先に地震にあいました。

鉄道、道路ともに帰る道をふさがれ、各ホテルも宿泊を断られ、途方に暮れておりました。そんな折に貴校に緊急避難させていただき、助かりました。貴校職員の献身的な対応に、久方ぶりに心が和みました。（中略）

どなたのお名前もわからず、御礼も言いそびれ失礼いたしました。心より御礼申し上げます。貴校がますますご発展されることを祈念いたします。誠にありがとうございました。